

敦賀市長選

激突 中村 VS 渕上

自民党敦賀支部幹事長

元市議

任期満了に伴う4月26日投開票の敦賀市長選。河瀬一治市長の勇退で、20年ぶりの新市長を決める注目の選挙。渕上隆信氏(53)⇨金山⇨は1月10日「疲弊した市内経済の再生に向け原子力以外の産業の軸もつくりたい」と立候補を表明。2月23日には中村紀明氏(60)⇨津内⇨が「経営感覚を生かした行財政運営と市民主体の市政を進めたい」と立候補を表明し、新人2人が敦賀市のトップを争う激戦が確実となった。

データでみる 敦賀市長選!

3月1日現在、敦賀市の有権者は5万4276人。前回の市長選は市議選と同日選挙で市長選候補者が4人も出馬したが、投票率は70・74%だった。今回も投票率70%として3万8千票となり、候補者2人で過半数1万9千票以上獲得すると当選となる。

商工業者が加入する敦賀商工会議所の支援を受ける保守系候補者であり、4年前の市長選の結果で見ると河瀬市長の得票数の7割9900票、岡本正治氏の6割4300票、多仁照廣氏の7割3500票を合わせれば1万7700票となり、残り1300票以上の上積みが見込める。渕上隆信氏は4年前の市長選で共産党など反自民票も取り込み1万1662票を獲得

した。今回は前回票の死守、さらに河瀬・岡本・多仁票をどれだけ獲得できるか、また20代、30代の若者や女性票の掘り起こしが勝敗の決め手となる。2月末には中村対渕上の攻防は4対6となっていたが、渕上氏は守りに入り防戦必死。互いの支持率は現在では均衡、渕上予断を許さぬ状況にも…。告示まで1カ月余り、出遅れを挽回しようと一致団結する中村陣営には追い上げる強み

があり、「逆転して当選する!」と意気込みは十分。両陣営一步も引かず臨戦態勢は投票日の4月25日まで続き、最後まで目が離せない。

敦賀市の昨年12月14日
衆議院比例代表政党別得票数結果
有効投票総数25,050人(投票率47・77%)

自由民主党	10,991票
民主党	4,610票
維新の党	2,927票
公明党	2,745票
共産党	2,255票
社会民主党	620票
次世代の党	419票
生活の党	333票
幸福実現党	150票